



本

年4月の兵庫県議会選挙において、多くのご期待を賜り2期目の当選をさせて頂きました。

三田市はニュータウン開発による人口急増（税収増）から30年以上が経過し、住民の高齢化や施設の老朽化、市財政収支の悪化が予測されるなど深刻な問題が山積しています。しかし、どんな厳しい時代も切り拓いて今日を築いてこられた先人達のように、今を生きる我々が知恵と力を合わせて乗り越え子供達のために未来を創っていく責任があります。ニュータウンも農村部も旧市街も工業団地もある、この多様性こそが三田の魅力であり、市民が一丸となってこの厳しい局面に立ち向かいます。

1期目・落選期間の経験も活かし精一杯働いて参りますので宜しくお願い致します。

New Office 新事務所OPEN

所在地 三田市相生町21-12
(神戸電鉄三田本町駅前)

TEL/FAX 079-509-0033

開所時間 10:00~16:00 (平日)

新しく事務所を開設しました。
お気軽にご相談等お声がけ
いただければ幸いです。

「ブラック校則」ご存知ですか？

- ・登校中の私語禁止
- ・地毛が茶色でも黒染め強制
- ・日焼け止め、リップクリーム禁止
- ・下着は白色のみ…などなど

校則の多くは生徒の成長のために必要で適切なルールですが、中にはあまりにも不合理なもの、一部教員が独自に定めたようなものであり、見直しが必要だと考えています。そんな校則があれば是非教えてください！

6月議会で一般質問させて頂きました

1 オールドニュータウン対策

①兵庫県の対策実績について

前提事実

高度経済成長期から日本中で都市郊外にニュータウン建設が行われるようになり、兵庫県にも多くのニュータウンが誕生した（三田市はその影響も最も大きく受けた自治体の一つ）。移住してきた住民の多くは同年代（子育て世代）で、その子供が独立すると親世代だけが残り、急速に高齢化が進む（将来的に空き家だらけになる恐れがある）という現象が起こっている。

質問内容

ニュータウンの住環境や人口を維持していくためには、空き家が始動すればすぐに入居が進むというような、早めの対応策を準備し若者世帯の入居を促進してニュータウン内の世代構成を平準化していくしかない。

前任期でも同じ趣旨の質問をし、その後平成28年4月に「兵庫県ニュータウン再生ガイドライン」が作成されたが、この4年間の実績を伺う。

【再質問】既に3市町で実施されているとの答弁だったかと思うが、三田市に住んでいてあまり効果を実感できないが、現状どのくらい利用されているのか実態を伺う。

答弁

県では新婚・子育て世帯の呼び込みに向け、「戸建ての空き家等を改修する支援制度」や、「高齢者世帯の住み替え促進に向け、現在居住する住宅を賃貸化する際の支援制度」等を創設した。

この制度を活用して、現在、3市で支援事業が創設されており、三田市では、ニュータウンの高齢化が急速に進んでいることから、高齢者の住み替え支援事業が整備されている。

【再質問】3市で県の制度を活用した事業を行っているというような答弁をしたが、改修事業については残念ながら申請が出てきていない（実績はゼロ）。今後、市町にも積極的に働きかけて、地域の住民が使いやすい制度になるように連携する。

主張

この制度は利用するには、三田市も一定の負担をしなければならないが、市の財政難などを理由に利用が進んでいないと思われる。ニュータウン開発は市町単独でできるような規模でなく、再生に向けても県が主導する必要がある。県単独の補助でニュータウン改修が実施される補助金の創設も進めて欲しいと考えています。

②フラワータウン駅ビルについて

前提事実

大型学習塾が撤退し少子高齢化・オールドタウン化を顕著に表している。ここは、駅の真上にあつてスーパーや複合便利施設を結ぶ連絡通路に面しており、フラワータウンの中で最も通行人の数が多い非常に目立つ部分でもあつて、空き状態が長く続くことは、まちの衰退を顕著に表し続けるということにもなる。

質問内容

逆に、この場所に活気のある施設、まちの再生に向けたテナントが来ればオールドニュータウン活性化策として大きな一手にもなる。これまでは、収益を上げることを最重点に掲げてきたと思われるが、政策加点（応募多数時）や政策減免（賃料の割引）などを実施してオールドニュータウンの活性化という策課題の解消も、事業計画の考慮要素に入れるべきと考える。例えば、子育て世代や若者が集まるような施設、保育所や専門学校にターゲットを絞って攻めてはどうかと考えるが、今後のテナント募集・営業の進め方について伺う。



答弁

当該ビルを区分所有する兵庫県住宅供給公社としては、少子高齢化などの政策課題に対応しつつニュータウン再生に繋がるよう、一つには保育所・託児所といった子育て支援施設、二つには若者を中心とした起業者を支援するコワーキングスペース、三つには医療・介護等の生活支援施設などの入居を目指し、取り組んでいく。また、テナントの入居促進に繋がるよう、ビルの魅力向上のため、建物出入口周辺の改修も今後予定している。

主張

議員としても、トップセールスで積極的に誘致活動を行っていきたい。皆様からも情報があれば是非ともお教えください。

③カルチャータウン地区センターについて

前提事実

昨年オープンした「まほろばブレッツァ」は、地域住民が使う日用品というよりはお土産物に近い商品が並び物販施設とレストランにとどまっているが、今後の地区センター計画の進め方や企業庁としての方針について伺う。

質問内容

兵庫県企業庁による「カルチャータウンの地区センター計画」は、スーパーなどの商業施設の他に行政機能や銀行機能、また文化活動を行う事の出来るスペースを含めた物販施設とレストランの併設された商業施設となっている

答弁

カルチャータウンのセンター地区には、街のにぎわいづくりのための商業施設等を立地する計画で、スーパー等の誘致を行ってきたが、近隣商業施設との競合などから、立地しては撤退の繰り返しであったため、今回のビジネスモデル（生鮮食品に加え、集客が見込める県下の特産品販売とレストラン併設）が上手くいくか見守っていきたい。

主張

近くに24時間営業のスーパーマーケットが開店し、状況はますます厳しくなるが、地域のために必要な計画の推進をしっかりとサポートしていきたく考えています。

2 高校のクラス数について

前提事実

- ①兵庫県も人口減少に突入り、31年度の全日制高校の募集定員も昨年に比べて1,000人、学級にして25学級が減少している。
- ②どの高校からクラス数を減少させるかという決定に「旧学区ごとの国公立中学校卒業見込者の数」が考慮される。
- ③三田市の旧学区（丹波市・丹波篠山市・三田市）の市は全て人口が減少している
- ④三田市内には比較的人気の高い高校が多く、市外から多くの入学希望がある

質問内容

この状況で三田市内の高校のクラス数（定員）を削減すると、市内の子供達が入学しにくくなり、遠い高校に通わざるを得なくなるようなケースが増えてしまう。また、高校にとっては、特色を打ち出して受験生から人気を得ている、「旧学区の中学卒業者の減少」という、学校にはどうすることもできない事由によって、募集定員が削減されることとなり、教員達の向上意欲を阻害する要因になってしまう。重視すべきは「子供達の希望」、すなわち受験希望の多い学校の募集定員をできる限り確保し、学びたい環境で子供達を学ばせることであり、そのために旧学区の卒業者数ではなく、「受験希望の多さ」を募集定員決定の最重要項目とすべきと考えるが所見を伺う。

答弁

各学区ごとに学級減を行う学校を決める際に、生徒の進学希望の動向、通学事情、地域や保護者の要望等を踏まえ、旧学区の状況などを総合的に勘案して決定している。

来年度からは、高大接続改革や普通科の見直しなどを踏まえた特色化の推進を図るとともに、今後も続く中学校卒業者の大幅な減少に対応するため、各学区における県立学校の望ましい規模や適正配置について検討する。

主張

学事課の資料には、考慮する点の第1番に「旧学区」が掲げられている。「総合的に考慮する」ことも大切だが、クラス数の減少は学校や地域にとって重要な問題であり、一般県民が納得できる結果が得られるよう何を優先的に考慮するかなどの方法は明らかにしておくべき。

R1.5.22 学事課

公立高等学校生徒募集計画について



1 目的

毎年度の県内国公立中学校卒業生数を基本に、生徒ひとり一人が希望する高校にできる限り進学できるとともに、各学校が有する学びの特色や魅力を維持・発揮できるよう、募集定員を設定する。

2 募集計画策定にあたり考慮する点

- (1) 旧学区（場合により市町単位）ごとの中学校卒業見込者数の動向
- (2) 各学校の規模（学級数）
 - ① 過大規模校の解消
習熟度別・少人数学習などのきめ細やかな学びに対応できる学習環境の確保
 - ② 小規模校の維持
通学利便性や通学費負担の考慮、地域と連携した特色ある学びの維持
- (3) 学科の設置状況
- (4) 「高等学校進学希望者数等調査」の結果等、生徒の進学希望動向

3 交通渋滞問題

前提事実

テクノパーク前交差点では朝の通勤時間に南側から南西方面に向かう車両により長い交通渋滞が発生している

質問内容

渋滞は、多くの県民が足を止められ経済的な損失も大きいうえに、通勤（帰宅）時の渋滞は、家庭で過ごす貴重な時間が削られている。渋滞解消対策について県では、本年3月に「渋滞交差点解消プログラム」を策定し解消・緩和を目指しているが、プログラムに位置付けられていない交差点でも渋滞が発生している箇所が存在する。例えば、三田市の「テクノパーク前交差点」では、毎朝渋滞が発生しており、比較的に低コストで改良できるような措置があれば、コストパフォーマンスも加味して弾力的に取り組むべきと考えるが所見を伺う。



答弁

交通渋滞による速達性・定時性の低下、沿道環境の悪化、事故危険性の増大などの問題を解消するため、県は、「渋滞交差点解消プログラム」を策定し、渋滞対策を計画的かつ重点的に実施してきた。

今年度から始まる第4期のプログラムでは、交差点改良やバイパス整備等の対策に取り組み、57箇所の渋滞交差点を5年間で半減することを目指している。

また、プログラムに位置付けられていない交差点の渋滞についても、道路拡幅等にあわせた右折車線の設置や用地買収を伴わない部分的な交差点改良に積極的に取り組む。質問のあったテクノパーク前交差点では、今年度中に、中央分離帯を撤去して右折車線を約30m延伸し、渋滞緩和を図る。

主張

これでテクノパーク渋滞の全てが解決するわけではありませんが、一歩前進です。

4 野焼き問題

ニュースにも取り上げられたが、他地域に比べても三田市においてこの4年間で急激に野焼き（野焼）を原因とする廃掃法違反での取り調べや逮捕、検挙数が増加し、先祖代々の伝統的な農業を営んできた三田市の農業者は戦々恐々としながら、それでも今日も農業を営んでいる。この豊かな県土の環境保全、食の供給に多大なる寄与をしている農業者と生活環境の両立をどのようにかはるか所見を伺う。

詳細はホームページか県政報告会にて

5 150周年事業の総括

昨年約5億円の予算を投じた150周年記念事業は、全体の約70%が継続事業で前年との違いの見られない事業も散見される。また、1,361件が採択され不採択は0件であるなど、十分な審査ができていなかったのではないとも思えるが適切な事業であったか。の環境保全、食の供給に多大なる寄与をしている農業者と生活環境の両立をどのようにかはるか所見を伺う。

詳細はホームページか県政報告会にて

その他要望

【道路河川】

- ・河床改修（川底に土砂が堆積し水流を阻害している）と狭隘道路の拡幅
- ・通学路安全整備の促進（学校前のガードレールやグリーンベルト）

【医療】

- ・三田市立病院の経営難・統合問題に関する主体的な関わり

※市域を超える課題で当然県の管轄（地域包括ケアシステムの構築含め）

【福祉】

- ・高齢者の自動車事故防止に向けて「自動ブレーキシステム（後付け）」の設置補助
- ・重度身体障害者を受け入れる生活介護事業所等の充実
- ・深刻な介護人材不足の解消に向けた対策（事業所の努力で賄えるレベルを超えている）
- ・医療的ケアが必要な児童・生徒にもスクールバス支援
- ・特別支援学級を含め配慮を必要とする児童に対する加配人員の増員

【教育】

- ・5・6年生まで35人学級を実現（少人数教育の推進）
- ・職域外業務の調査および適切な外注化
- ・地域の人口減少にともない増加が予測される小規模校への支援